

3年間をまとめると…。名案出ました。

(※注 今回の学年通信は、最初から最後まで通して読むことが推奨されています。)

皆さんならこの3年間を振り返って、例えば一言でまとめるなら、どのようにまとめますか？

「愉快的仲間達と…」「貴重な体験をした…」などいろいろ思い浮かびますね。

先生も最後の通信を書こうと決めて、年末ぐらいからずっと考えていたのですが、なかなか決め手に欠けていました。

そして最終思い付いたんですが、「64期生は風と共にあった」。

これどうすか。すべてますかね。先生は、これがベストだと思ったんですね。

勘の良い皆さんならお気づきでしょう。ここから長いです。まあ聞いて下さい。

1年生を振り返る。

先日。クラスの生徒のクリアファイルから検温表が出て来ました、
そうです。1年生の頃はまだコロナ禍にありました。毎朝体温をチェックし、先生も小っちゃい小っちゃいハンコを押しまくっていました。

言葉の綾ですが、日本全国、世界に大きな影響を与えたこの「かぜ」を超えた感染症は、この淀川中学校にももれなく影響を与えていました。

そんな中、皆さんが入学したのは2022年の4月6日。梅や桜の花が咲き誇る、そんな時期でした。入学式の写真を見返すと、全員マスク姿で、「そうだったなあ」と今との違いに驚きます。一泊移住の行先は覚えていますか？

「京都府青少年海洋センターマリーンピア」です。

影響や制限等はありませんでしたが様々な活動に取り組みました。

施設の周囲に設置されたアスレチックをヒイヒイ言いながらクリアしていき、帰って来たチームから、ボルトス10回・背中合わせ立ちなどのチームビルド(仲間作り)活動、その後には海に出てカッター体験、夜は室内オリムピック…。

特にカッター体験は2日間を通して取り組み、2日目の最後には2クラスで競争が出来るぐらいに上達していました。「俺の財宝か？欲しけりゃくれてやる…。探せ！この世の全てをそこに置いてきた！」先生の心の中のゴールドロジャークがそう言ってました。先生もカッターに乗りながら、航海士になろうか、そんな風に思うぐらいのオール捌きでした。ログポーズつけて。

マスクを着用し、つい立てを挟んで食事をして、制限もありながらも、2日間を楽しそうに過ごしている皆さんの姿が印象に残っています。

1年生で他に印象に残っているのは、文化祭です。

ここでクイズ！2年前の文化祭で、64期生全体合唱で歌った2曲は何でしょう！

出て来ますか？この後に答えを載せてますので、あまり見ずに思い出してみてください。

これはなかなか難しいかと思えます。

正解は「朝の風に」「今を生きる」の2曲でした。この時は動画を収録して、文化祭当日に見るスタイルでした。開閉会式もTeamsを通して教室で見ましたよね。

展示ではじゃばら絵を行いましたね。各クラスで代表の作品を拡大し、組み合わせ、見る方向により絵が変わるという作品でした。

北館3Fを「淀川美術館」と名づけ、手前の学習室では惜しくも代表には選ばれなかった珠玉の佳作作品達を展示し、奥の学習室でどデカくじゃばら絵を展示するという流れでした。

「あれは良かったね。」と上田先生が後で褒めてらっしゃったのを聞いて、心の中で大ガッツポーズでした。

風を起こす側に。2年生を振り返る。

時は流れ、学年があがり、2年生になりました。桜の花が咲くのも2度目になりました。

3クラスになり、たまげたという人も多かったのではないのでしょうか。聞いた時どう思いました？教室も、最初はプレハブ校舎でした。放課後は暑くて暑くて大変でした。

2年一発目の行事は奈良への校外学習でした。ルートを調べ、実際に周っていくという経験は、1年生の校外学習(大阪市内散策)でもやったことがありましたが、他府県で、馴染みのない地での計画は思い通りに行かないことも多く、走って移動することになっていた班が多かったのが記憶に残っています。この経験が後に修学旅行へと繋がることになります。

東大寺や興福寺などの古都奈良の歴史に触れ、賓頭盧尊者像(びんずるそんじゃぞう)という撫でることで病気が良くなるとされる像に触れ、仲間の新たな一面に触れ、鹿にも触れ…。

また、同時並行で、校外学習中に撮ってきた写真をもとに作品を制作するフォトコンテストも行いました。みんなの芸術家魂が大爆発、素晴らしい写真がたくさんあり、中でも最優秀作品に選ばれた作品は、大仏の手の大きさを効果的に使った面白いものでした。

そして文化祭です。先生好きなので、また文化祭の話します。

この頃には新型コロナも5類になり、文化祭も元の形に戻ることにになりました。

と言っても、その元の形を見たことのない皆さんからすると、知らないもの・見たことのないものに取り組むというのは、とてつもなくハードルの高いことだったんじゃないかと思えます。

何も無い所を開拓していくようなわけですから。

まして長年マスクをし、大きな声を出すことが避けられた生活をしてきた末の学年劇なんてとっても難しかったことでしょう。だからこそ、「さとうきび畑の唄」をもとにしたあの学年劇は、すごく価値のあるものになりました。この2年生、文化祭では、これからの淀川中学校の文化祭の流れを改めて形作り、**風を起こす側**に皆さんは成長していききました。

全体合唱は「月桃」を歌いました。劇と合唱がひとつつながりになって、1つの作品となったような、そんな学年発表となったように思います。

この頃から進路学習も学年では取り組んでいきました。多種多様・多彩な学校の中から、自分の中学校卒業後の進路を考えるというのは難しくもあり、楽しくもありました。去年の今頃には、各進学先の紹介や、自分の入った部活動の紹介、中学生へのアドバイスや、中には歌を実際に歌うパフォーマンスをしてくれた先輩もいました。こういった話や、進路指導主事の山本先生からも進路に関する講話をしていただいた所から、皆さんの意識が少しずつ進路に向いてきたように思います。

3年生を振り返る。

3年生になり、君たちの起こす風はさらにうねりを上げていきます。

まずは修学旅行。1日目は雨ながらも、バスレク係の作成してくれたDVDを楽しんであっという間に岐阜に。民泊で各受け入れ民家にて、藍染め体験・パンづくり・体育館を借りてのレクリエーションなど、出来る最大限の活動をさせてもらえました。

2日目、ラフティングはなくなってしまったものの、ランプシェード作りや選択別体験を思う存分満喫しました。昼食は飛騨牛の陶板焼き。最高でした。思い出してもよだれが出ます。夜にはホテルレインボーにて、全体レクリエーションを行いました。さるぼぼサルサを踊ったのは、いい思い出です。レクが終わってから、各クラスでクラスミーティングをしました。実はあれ、結構急遽でやろうということで委員長の皆さんにお願いをしました。夜レクをやってる最中ぐらいに、「ミーティングやるから、喋ってくれる？」とお願いして、それで喋ってもらった流れです。

後から聞くとところでは、各クラスとも、しっかりと最終日に向けて士気が高まるような話を委員長さん達はしてくれたということでした。

急なお願いでも対応してもらってありがとうございました。みんなすごいです。

全体合唱の「僕らはいきものだから」との出会い、以前書いた通り、運命的なものでした。この2つを選んだ背景に、みんなへの思いがありました。困難に立ち向かう強さ、迷いや変化を受け入れ強く生きていって欲しいという願い。最後の文化祭に、この2つの発表を通して、それが皆に伝わればな、とずっと思っていました。取り組み期間を通して、練習を重ねて、そしていざ迎えた本番当日。皆が舞台に立っている姿は、本当に凛々しくて、雄々しくて、かっこよく見えました。

保護者の方々、他学年の先生方などなど、沢山の方から褒めていただきました。難しいテーマでもしっかり表現しきることの出来た皆さんは、本当にすごかった。「自慢の学年やなあ」と、表立っては言ってませんが、心でめっちゃくちゃ思っていました。あとやっぱ途中で出てきたバイクが最高過ぎました。あの一瞬で、しっかり笑いを取れるなんて素晴らしい過ぎます。今思い出してもまだおもしろいです。美しきあの瞬間。ああおもしろい。終わってから中庭で学年の全体写真を撮りましたね。なんだかあの瞬間、今でも心に残っています。良かったよなあと改めて思います。

そして再び時間は流れます。3学期を迎えました。中学校生活の総まとめの時期になりました。この頃になると、受験モードまっしぐら。高校見学・習熟度別学習会・自己申告書・WEB出願…。今年度になって受験のシステムが変更になったこともあり、とっても大変だったと思います。それでもよく頑張っていたと思います。進路が決まる人も出て来ました。「最後まで気を抜かないようにしましょう」という話を集会でしました。その後、時計を見て、みんなが教室に入れるように、抵抗なく時間を守れるようになった姿は、修学旅行での経験がここに繋がってきたかなあと思っています。

そして昨日、一般選抜入試が終わりました。卒業式も近づいています。ここで、先生が最近学んだ言葉について、紹介させて下さい。「梅花、春に魁(さきがけ)で咲く」。梅の花は、どんなに寒い冬でも凛と立ち、蕾をつけるそうです。その蕾は必ず実を結んで、まもなく訪れる春を告げてくれます。背中を丸め、下ばかり見ていると、目の前まで来ている暖かな春の兆しも見逃してしまいます。逆境にあっても、辛い冬の時期でも、背筋を伸ばしましょう。見方は大事です。冷たい雨と捉えるか、恵みの雨と捉えるか。見方を変えると、自分の周囲の暖かな存在にきっと気が付くはず。皆さんは一人ではありません。一人じゃないです。きっと支えてくれる人がいると思います。いつかそこに目が向いたらいいなと思っています。あともう一つ例え話出してもいいですか。直接落ちていて話す時間があんまり無いので、じっくり書きます。もう少しお付き合い下さい。

ここまで、風を起こし、そしてもうすぐ皆さんは風を受けて大きく、悠々と羽ばたこうとしています。ここまで書いたようなことをずっと考えていましたので、今月の委員長会の目標が「羽ばたけ!」になった時、思わず「神よ…」とつぶやきました。

先生が最近、ケーブルテレビのナショナルジオグラフィックで見た生き物の話をします。1つはハヤブサです。(漢字では隼らしいです。知っていました?)ハヤブサはなんと世界最速の鳥だそうです。急降下する時の最高速度では時速300kmを超えるらしいです。しかし、ハヤブサは生まれもって速く飛べるわけではなく、何度も何度も失敗を重ねながら、自分で狩りが出来るようになっていくそうです。先生が見ていた中では、地上の獲物目掛けて急降下したものの、失敗して地面に叩きつけられるシーンが映っていました。

これはどんな生き物にも共通して言えることだと思いますが、失敗は付き物であるということを示していると思います。先生もたくさん失敗してきました。出来る失敗は全部したんじゃないか、くらい失敗してきました。その経験があるから、今があると言えると思います。

最終日、飛驒の里にてさるぼぼの創作体験を行いました。みんな同じ顔のはずなのに、「私のがかわいい」「いや、こっちのが」と言い合いをしていたのが面白かったです。さるぼぼの色は、クラスごとでの選択のはずだったのに、結果として学年全クラスが合格祈願の思いを込めた、青色のさるぼぼをクラスカラーとして選択していたところが、みんなの進路に向けての意識を表していたのかなと思います。

その後は高山市内散策でした。事前の取り組みでは市内散策のルートを計画しました。お土産の購入OK、食べ歩きももちろんOKろいうことで、タブレットにかじりつくように調べ学習に取り組み、ビッグ地図に書き込みまくっていた姿が、今も脳裏に焼き付いています。

修学旅行では、時間とルールを守ることを目標におき、【指導ゼロ!】をキーワードに学年全体で取り組んでいました。

もちろん達成に向けて先生も準備を進めていましたし、皆もきっとそのつもりだったと思います。

ですが、先生の心の中のネガティブな面が、ネガティブ西が、「時間遅れて来たらどうしよう…」「ルール違反あったらどうしよう…」とささやいていました。

ですが、結果として5分前に全班が集合完了することが出来ました。

徐々に各班が帰ってくる姿を見ていたら、ただ行って帰って来ているだけのことなのに、「今までの校外学習なんかでの失敗がここに繋がっていて…」と勝手に歴史とドラマを感じて、ただ帰って来ただけのことですが、先生は胸の熱くなる思いでした。

その後、バスに揺られながら、この3日間を振り返る映像を見ながら帰って来ました。あの映像は、西岡先生が2日目のホテルで巡回もしながら、夜を徹して作ってくれたものです。大変な中やってもらった事は本当にありがたいことですね。見終わった後に皆さんから自然と拍手が沸き起こったのが、みんなの心の豊かさを示しているように感じました。

学校到着後の帰校式で、校長先生から「100点満点中、120点」という超お褒めの言葉までいただくことが出来ました。

結果、指導はゼロ、体調不良で離脱する人もゼロ、時間も守ることが出来た上で修学旅行を終えることが出来ました。「こんな素晴らしいことはない」と、心の底から思いました。

体育大会。なんと本番が修学旅行の1週間後というスケジュールでした。修学旅行と同時に並行で全体練習にも取り組んで来ました。当日は3年間の総まとめのような激戦・熱戦が繰り広げられました。最後の種目のリレーが終わるまで勝敗はもつれ込み、なんとわずか1点差での優勝。優勝は、えっと…何組でしたかね…。今読んでおられるあなた、優勝したのは…あれ?…。皆さんの持てる力を思い切り発揮した1日になったと思います。体育大会後に撮った、各クラスの集合写真は笑顔が輝いていました。

暑い夏になりました。この頃から勉強会も積極的に開催していきました。放課後の時間の1~2時間でしたが、まるで自分自身と向き合う禅のような、精神修行のような…。毎回終わる頃には、何故か苦痛から解放されるような表情を皆さんがされていたような気がします。夏休み中にも勉強会は実施。一定期間ではありましたが、この超過酷なサバイバルレースを勝ち抜いた人は自信を手にすることが出来たはず。です。

夏休みが明け、2学期になりました。文化祭の時期が近づいて来ました。取り組みが始まる前の概要説明で「学校行事として学年全体で取り組むのは、卒業式を除くこれが最後になるよ」という話をしました。皆さんの気合の入りようが今までとは違ったように感じました。

3年生の学年発表としては3つ。学年劇「グッドバイ・マイ…」全体合唱「僕らはいきものだから」展示「修学旅行まとめ」でした。

学年劇の「グッドバイ・マイ…」は、昨年以上にレベルアップした内容で、「これをやろう!」と提案していた先生自身も、「いけるか…」と思っていました。ですが、「いつかこれをやろう」と思っていた12年前の目標を達成出来るかもしれない、そんなワクワク感も胸にありました。

あともう一つ例え話出してもいいですか。
直接落ち着いて話す時間があんまり無いので、じっくり書きます。もう少しお付き合い下さい。
ここまで、風を起こし、そしてもうすぐ皆さんは風を受けて大きく、悠々と羽ばたこうとしています。
ここまで書いたようなことをずっと考えていましたので、今月の委員長会の目標が「羽ばたけ!」
になった時、思わず「神よ…」とつぶやきました。

先生が最近、ケーブルテレビのナショナルジオグラフィックで見た生き物の話をします。
1つはハヤブサです。(漢字では隼らしいです。知ってました?)

ハヤブサはなんと世界最速の鳥だそうです。
急降下する時の最高速度では時速301kmを超えるらしいです。

しかし、ハヤブサは生まれもって速く飛べるわけではなく、何度も何度も失敗を重ねながら、自分で狩りが出来るようになっていくそうです。
先生が見ていた中では、地上の獲物目掛けて急降下したものの、失敗して地面に叩きつけられるシーンが映っていました。

これはどんな生き物にも共通して言えることだと思いますが、失敗は付き物であるということを示していると思います。先生もたくさん失敗してきました。出来る失敗は全部したんじゃないか、くらい失敗してきました。その経験があるから、今があると言えると思います。

生まれ持って卓越した技術を兼ね備えた人なんて一人もいません。
予告しておきます。

今後も皆さんも必ず失敗はします。

ですがそれは、皆が経験することで、その積み重ねが人を大きく・太くします。

いやだな、と思うこともあるかもしれませんが、真面目に取り組み、
何事にも積極的にチャレンジすることを忘れないでいて欲しいなと思います。
次に、カワセミです。(これ漢字で翡翠って書くんですけど。へえ)

カワセミには大きな特徴があり、光沢もあり、青緑に輝く綺麗な羽の色。
皆さん1度は耳にしたことのある、「幸せの青い鳥」のモチーフと言われています。
そして体に見合わないくちばしの長さです。

全長は17センチ、それに対しくちばしの長さは4センチと約4分の1にもなります。
長いくちばしは取り回しにも不便なのですが、流線形をしたくちばしが生きる環境がありました。それが水中です。流線形であることは、水の抵抗が少なく済みます。なので、水の中に飛び込み、小魚を捕まえることに抜群に長けているわけです。

これは、必ず自分の特性を活かす場があるということを示していると思います。
なかなか上手くいかないことに直面することもあるかもしれませんが、あなたが輝ける場はきっとどこかにあります。諦めず、腐らず、真面目に取り組むことが大切なのかな、と思います。

さあ、もうまとめに入ります。ここまでお付き合いいただきありがとうございました。
もう心残りは無いですか。先生は、授業の中で、get + 形容詞の例で、「get ready?」というマリオカート64におけるピーチ姫のモノマネを披露することが出来なかったことだけが、悔やまれます。はい。

心残りなこと、ってのもきっと人生においては直面します。何度も出て来ます。「あの時あれやっておけばなあ」「ああ言っておけば…」などなど。

でも、いつかその後悔や心残りを清算するタイミングも来ます。
先生はこの3年間、今で教員13年目なので、君たちと出会うまでの10年間。
10年もの間の心残りなどなどをやり尽くす3年でした。
その時に、しっかり解消出来るよう、思う存分満喫出来るよう、経験をたくさん積んでおくこと・知識を身につけることが大事です。

先生は、先生の10年の経験を、この3年間にぶつけました。

桜の木には、再び花が咲こうとしています。

いやー、
君たちに出会えて本当に良かった。

何か月も、何年もの間、誰かの成長を、こんなに喜ばしく思うことがあるんだ、と思っています。
3年前の今頃、学年主任を引き受けて、本当に良かった。
先生の人生における、最高の選択の1つでした。

振り返るとこの3年間は、時には大変なことももちろんありましたが、それも必要なことで。
まるで、夜空を彩る花火・煌めく星空のようでした。

学年通信を書き終えるのがこんなに名残惜しく思うとは。
君たちと過ごした3年間、先生は忘れません。

義務教育の9年間は、保護者の方の愛、仲間達との友情、いろんな方々の支えを受け、
追い風を受けてここまでやって来ました。
この先の人生は、皆さん

卒業式は、心の中で、静かに3年間を思い返しましょう。
この学年通信を読み返して、皆が3年間を思い返す、その助けになればと思います。

そして、この学年通信に64期生の全てを込める、という意味合いで、
今回の通信に、学年生徒・教員全員の氏名から1字を取り入れる、ということに挑戦しました。
また探してみてください。先生の出来る全て、64期生の全てを込めました。

さあ、永遠のように、悠久にも感じられる3年間も、いよいよ終わりを迎えます。
いよいよ最後です。

羽ばたけ!64期生!